

重要な開花期前後の防除

開花期前後は、黒星病、モニリア病、腐らん病、ハマキムシ類等防除の重要な時期です。園地の発生状況に合わせて防除を実施しましょう。

① 黒星病

開花直前と落花期が重点防除時期です。昨年発生した園地では、この時期にEBI剤を散布します。黒星病は低温で雨が多いと感染しやすく、またこの時期は新梢の葉が次々に展葉するので、病気に対する抵抗性が弱く、10日以上散布間隔を開けると多発する危険があるので注意してください。

花そう葉の表側の病斑



② モニリア病

葉腐れを確認した場合、開花直前の黒星病対象EBI剤は、アンビルフロアブル、又はサンリット水和剤を選択します。



葉ぐされ症状

③ 腐らん病

今年新しく発病した病斑は、開花期ごろまで伸展します。とくにわい性樹は側枝基部のしわ部分に発病することが多いので、園地をよく見回り、病患部の早期発見に努め、枝腐らん病のせん除、胴腐らん病の削り取りを徹底します。また、せん除した枝や削り取った病患部は放置しないで焼却します。



④ ハマキムシ類

落花期に有機燐剤を散布し、ハマキムシ類等害虫を一掃します。マメコバチ導入園では、訪花昆虫に影響のないアタブロンSC、ロムダンフロアブル、ファルコンフロアブル、ファイブスター及びバイオマックスDFを使用します。



ミドリカクモンハマキ幼虫 ＊青森りんご試 川嶋
新梢の被害